

富山市内の大気中の窒素酸化物、硫黄酸化物の濃度は低下している

日本では産業活動が活発になってきた昭和30年代後半から硫黄酸化物や窒素酸化物などによる大気汚染がすすみはじめ、昭和40年代後半には全国で深刻化し、多くの公害病も発生しました。昭和43年に制定された大気汚染防止法はその後強化され、昭和40年代終わり頃から硫黄酸化物、窒素酸化物の排出量や大気中濃度が低下しはじめました。

図2-3、図2-4は、それぞれ、富山市内的一般大気観測局における大気中の硫黄酸化物と窒素酸化物の濃度の経年変化を示したものです。硫黄酸化物の大気中濃度は昭和40年代後半と比べて大きく低下しました。窒素酸化物の濃度は工場地帯や街の中ではやや低下しましたが、自動車の排気ガスの影響が大きいため、硫黄酸化物ほど大きくは低下していません。また、空気中の微細なホコリなどの浮遊粒子状物質の量は減少傾向にあります(図2-5)。

これらに対して、大気中の窒素酸化物と炭化水素などから太陽光による化学反応で生成する光化学オキシダントの濃度は上昇傾向にあります(図2-6)。

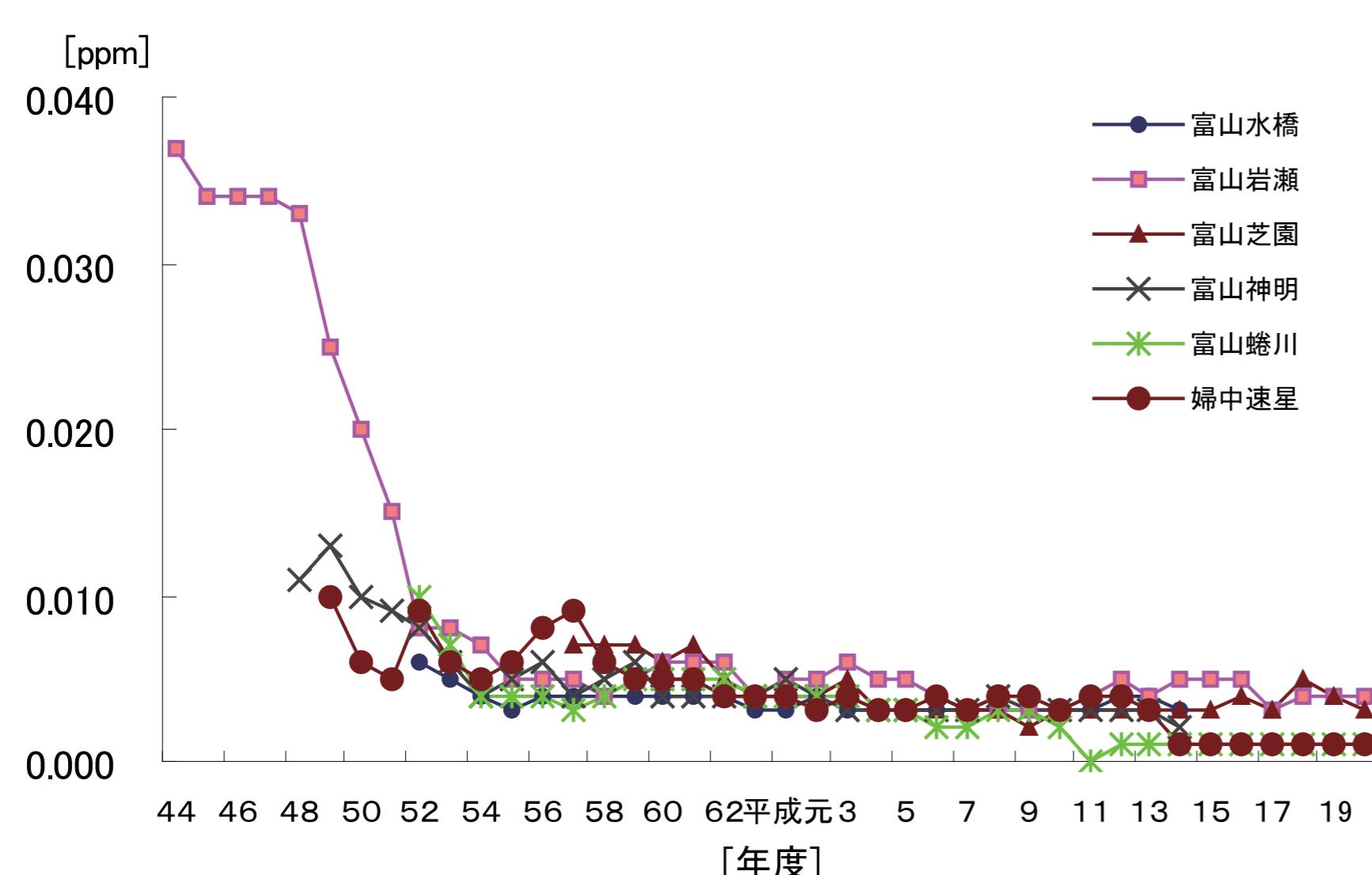


図2-3 富山市内的一般大気観測局での大気中の二酸化硫黄(硫黄酸化物)濃度の変化

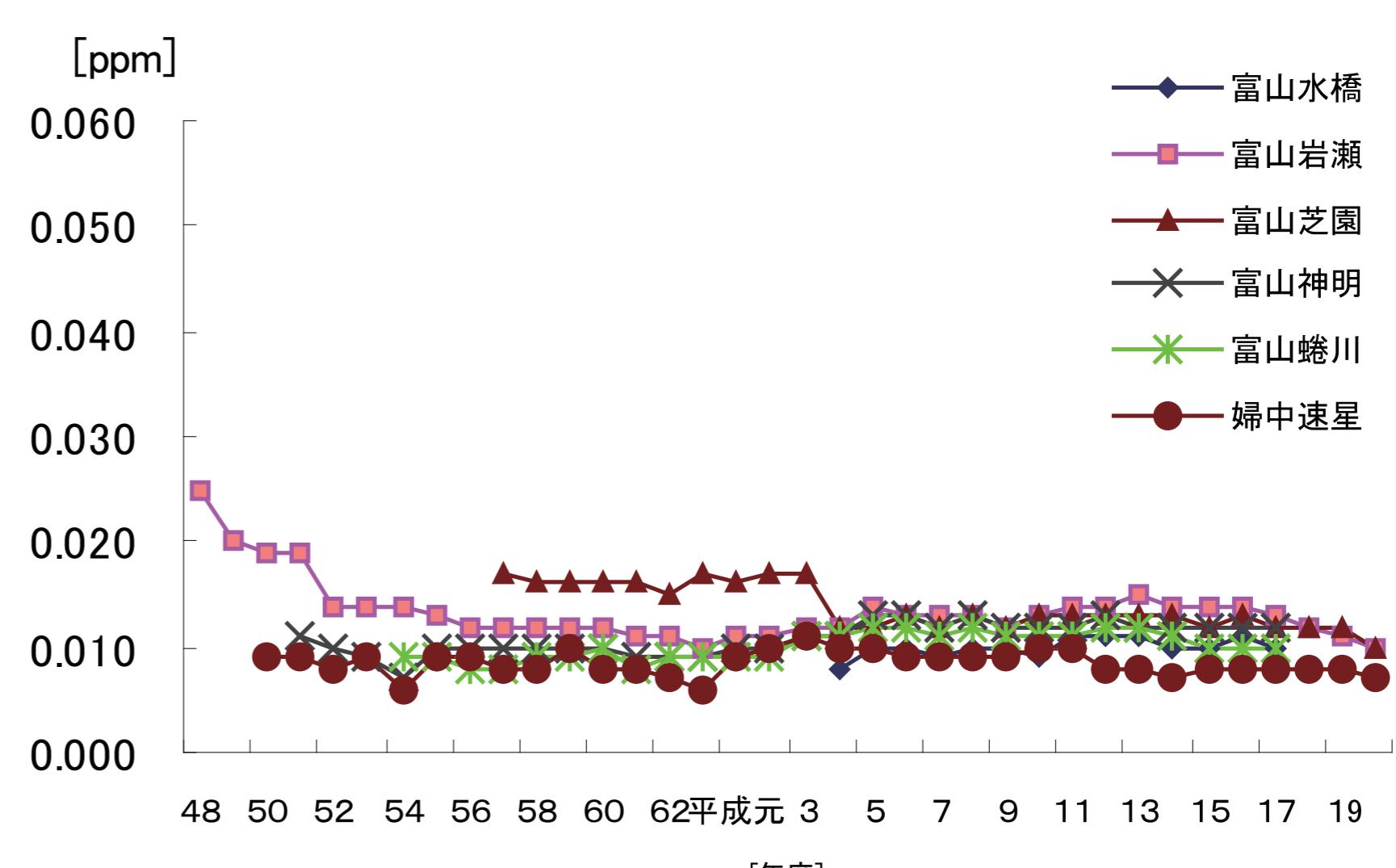


図2-4 富山市内的一般大気観測局での大気中の窒素酸化物濃度の変化

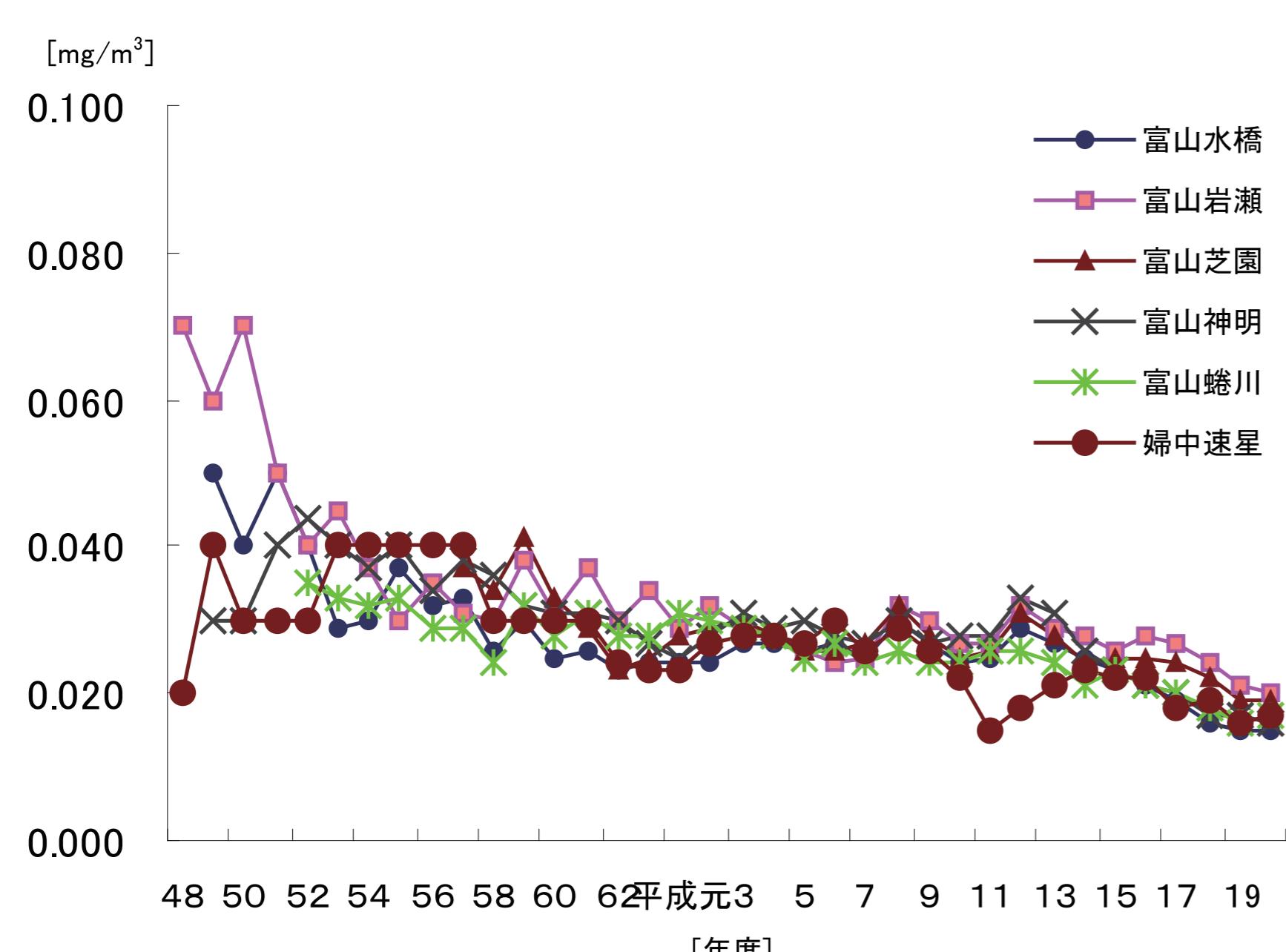


図2-5 富山市内的一般大気観測局での大気中の浮遊粒子状物質濃度の変化

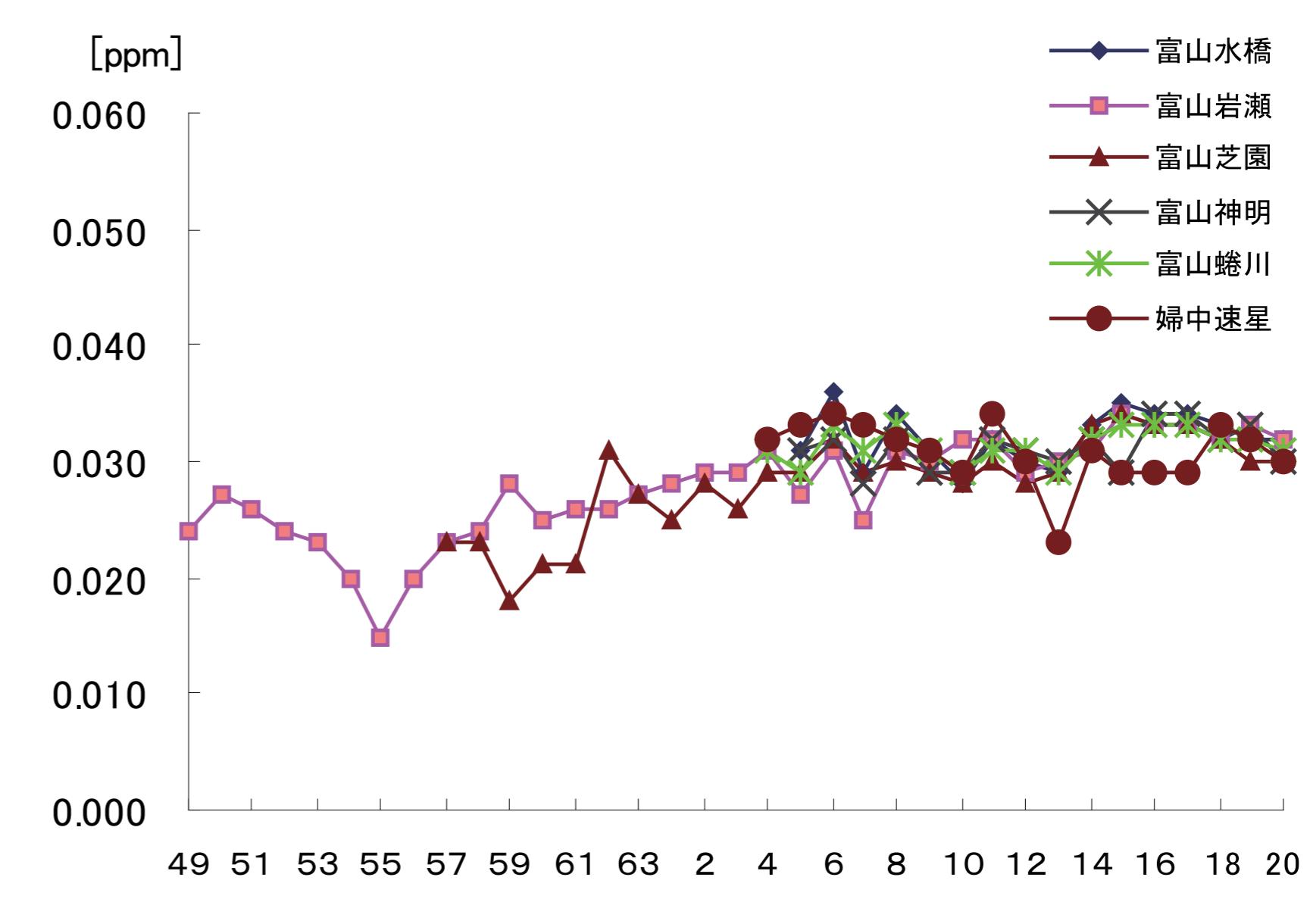


図2-6 富山市内的一般大気観測局での大気中の光化学オキシダント濃度の変化